



動においても十分に反映され、各人の意識・資質向上にも必ず繋がっていくものであると信じます。私たちに要請されている事は少なくありません。その中で出来る事には限りがあるかも知れませんが、いま正に何かを行動に移す時が来ているのではないでしようか。

使命感と責任感の伴った、一歩共に歩こうとする意思と、一歩共に進もうとする行動力によって、慈悲の反射神経を十二分に発揮し、全国会員諸師とともに当事業に取り組んで参ります。

●委員会の再編

今期は、第17期よりの組織改編を受けて、従来の6委員会から4委員会(総合企画、広報、法式、基幹事業)への再編成に着手致しました。

具体的には、これまで同じ情報を扱う事が多かった広報委員会とIT委員会を統合し、全曹青の情報伝達媒体である『そうせい』と『般若』を一括運営管理してより立体的な広報活動を目指します。同時に、「IT」を「ICT (Information and Communication Technology)」に名称変更した部門を事務局庶務に配置し、組織内インフラの整備に努めて参ります。また、総務委員会を総合企画委員会と名称変更し、職務も事務局補佐中心から、委員会独自で、頒布や研修会開催を企画運営する事も視野に入れ、その活動内容に幅を持たせることと致しました。

法式委員会については、従来通り、全国会員諸師のニーズに合った事業展開を推進して参ります。

これらの委員会再編や会務の再検討は、単に予算や会務の縮小を目的としたものではなく、各委員会ごとの事業内容の重複を回避し、職務効率化と予算の集中を図って、より有意義な全曹青活動の実現を狙いとするところであります。

●災害対策について

災害対策に関しては、従来のボランティア委員会を、理事・執行部を中心とした特別委員会へ変更し、これまでの活動と体制を再検証して、委員会主体による災害支援活動から、全国会員諸師との協働可能な組織づくりを提案整備して参ります。

●連絡協議会の組織強化と非加盟曹青との交流

全国組織ネットワークを活かして、全曹青の

本分である連絡協議会という役割を果たし、各曹青会をはじめ、各地域の一人ひとりの活動紹介は勿論のこと、その意識を繋げることに重点を置き、より連携強固な組織づくりの実現を目指して参ります。また、非加盟曹青会とは、人的繋がりがりや全曹青から提供し得るコンテンツを通して、その意識や活動の交流を図って参りたいと考えます。

●私たちの目指すべき姿勢とは

道元禅師は、『正法眼蔵』自証三昧巻において、「おほよそ学仏祖道は、一法一儀を参学するより、すなはち為他の志気を衝天せしむるなり。しかあるによりて、自他を脱落するなり。さらに自己を参徹すれば、さきより参徹自己なり。よく自己を参徹すれば、参徹自己なり」とお示しです。

禅師はここで、私たちの目指すべき姿勢について、些かも違う事なく云い当てておられます。私たちはこの御教えを文言の内に留め置いてはならないと考えます。

現代世相と宗門の現状を十分に認識把握し、自己に徹底すれば、他者にも徹底することになり、同時に他者に徹底すれば、自己にも徹底することになる。という事についてお互いに真剣に考え、切磋琢磨し、勇気を持って積極的に活動していくことが私たちに肝要といえましよう。

最後に、私たち第18期執行部一同は、全曹青・宗門における先達の功績や情熱を忘れることなく、不惜身命・粉骨碎身の決意にて、この2年間の会務に邁進する所存でございます。宗門御寺院様、青年会会員諸師には全国曹洞宗青年会への更なるご理解ご協力をお願い申し上げます、私よりの所信と致します。

合掌